

再び始まる反安保の闘い

六〇年を上回る勢力

23日 荒れ模様、衝突繰り返す

一九六〇年以来公然たる「軍事同盟」として、日・米関係の「動脈」的役割りを担ってきた「日米安全保障条約」は、この六月二十二日をもって、一応、十年の固定期限を終了した。しかし、引き継いで二十三日以降も「自動延長」される。安保条約破棄を主張する革新系諸団体、新左翼各派は二十二、二十三日の両日、激しい抗議行動を展開した。特に二十三日には全国で一六六万人と、六〇年安保の最大動員数を上回る数の人々が反安保の意思表示を行なった。「安保」は、今後いつでも廃棄の通告ができる新たな段階を迎えた訳で、これまでの「安保」の卑なる延長ではなく、昨年十二月の「日米共同声明」によって、一層、改悪された「安保」であり、これからは早期破棄へ向けての、更なる闘争が要求される。

(三面にルポ掲載)



6・23 反安保闘争
 明治公園はヘルメット部隊、ノヘル学生、労働者によってうめつけられた。
 反安保闘争、権力総体に向けた闘争、懸望があるのか、無懸望なのか。どちらにしても、「人間として」「生きていけるために闘いをやめる」はできない。だから今日もまた……。

22日
 安保の「個定期限」も開かれた。しかし、全体的に平穏で緊迫感が薄かった。夜に入ると、新左翼系が連発の行動をおこし、各所で機動隊との小せり合いとなり、かなりの数のこのぼる逮捕者を出した。午後五時から始まった、平連主催の「毎日デモ」には約四〇〇〇名が参加。集会後、デモに移った。しかし解散地点の土橋付近で整備の機動隊と衝突、十六名が逮捕された。また、反市庁系学生は渋谷の宮下公園に、約一〇〇〇名を集めて集会。終了後、日比谷公園までのデモ行進を行ったが、公務執り、再び集会を開いて行進を上げ、行進中など五十一名の逮捕者を出した。

23日
 この日は沖繩でも反安保集会在開かれた。この集会には学生・労働者・市民約四万人が参加。嘉手納基地前のゲートにすわりこんで軍用犬を連れた整備の米兵とにみ合った。

「新しい安保」の初日。朝から荒れ模様。前日から西国立駅に結集していた革マル派約二〇〇〇人は午前四時頃、入構してきた列車を一時占拠した。また、中核派の約一五〇〇人も、七時頃から八時頃にかけて新宿駅へ結集。線路に降りるなどして鉄道公安員とも合った。

この日、社・共は一日共闘を組み、午後六時半から代々木公園に約一五〇〇〇〇人が参加。新左翼も午後六時半から清水公園にべ平連系が一五〇〇〇人、全国共闘、全国反戦が主催する「一労学市民大統一行動」の明治公園は約六〇〇〇〇人の結集をみた。革マル派も六時過ぎ日比谷公園に四〇〇〇〇人を集め集会を開いた。社・共、新左翼とも、八時過ぎからデモ行進に移った。社・共の方にはさしたる混乱もなかったが、新左翼のデモは各地で大荒れに荒れた。

八時半、ML派は青山三丁目付近で、機動隊に火炎ビンを受け、警備車を燃やしたり、劇薬をまいた。中核派も七時頃、機動隊と衝突。一部は麻布署に投石などを行った。十時近くに、べ平連の一部が有楽橋ですわり込み。革マル派も特許庁周辺にすわり込んだ。さらに代々木公園までのデモを終えた、全国共闘、反戦は十時頃から包圍する機動隊の一進一退の対峙。全国共闘の一部は

機動隊に追われ、日比谷公園に突入した。十二時をまわっても機動隊との対峙は続いた。この日のデモには全国で七七〇〇〇〇人(警察庁調べ)が参加し、逮捕者は六七八人であった。